

第1章 大江町の概要

第1節 位置・沿革

大江町は、山形県のほぼ中央部、山形盆地の西部に位置し、東は寒河江市、西及び北は西川町、南は朝日町にそれぞれ接しており、朝日山系に源を発し最上川に注ぐ月布川を中心として東西24km、南北16kmの東西に細長い地形となっている。

町西部は、朝日山系の小朝日岳(1,648m)や古寺山(1,501m)などの高山群に囲まれており、東に向かい標高が低くなるにしたがい田、畑、樹園地などの耕地が多くなり、集落が散在する。本町の中心市街地^{あてらざわ}左沢は、最上川と月布川が合流する町の東端に位置している。

本町の面積は153.92km²で、その4分の3が山林で占められている。現在は居住地平均標高は212mで標高200m以下は総面積の13.7%にすぎず、標高400m前後まで居住空間をなしている。

気候は内陸型で積雪寒冷地帯に属し、積雪期間は概ね12月上旬から3～4カ月に及ぶ。特に、西部山間地の積雪期間は5カ月間の長期にわたり、積雪量は町の中心部で1m前後、山間部は2～3mに達し特別豪雪地帯に指定されている。また、平成22年の降水量は年間1,522mmで、年間最高気温は35.4℃、最低気温はマイナス10.5℃となっている。

大江町は、昭和34年に左沢町と漆川村とが合併して誕生した。

左沢町は明治22年町村制施行により、左沢、藤田、小見、富沢、三郷の各村が合併し左沢村、明治29年に左沢町となった。その中心市街地左沢には中世、交通の要衝を押さえるような左沢楯山城が築かれた。江戸時代、最上川舟運の中継地の役割を担い、大正初期にかけて舟運を背景に栄えた歴史を持つ。往時の繁栄の歴史をしのばせる家並みなどが現在も残っており、民謡「最上川舟唄」の発祥の地でもある。

一方、漆川村は、昭和29年に本郷村と七軒村が合併してできた村である。

本郷村は近世松山藩の所領であったが、明治維新後に敷かれた区制を経て、明治22年の町村制施行に伴い13カ村が合併して本郷村となった。また、七軒村は江戸時代徳川直領に属し、柴橋陣屋代官の支配下において明治維新を迎えた。明治22年町村制施行に伴い7カ村が合併して七軒村となった。

大江町の町名は、最上川の雄大な眺めに由来しており、「百川衆沢^{ひやくせんしゅうたくことごとく}尽^{たいごう}く一大江に帰する」の意を取り、町の発展の希望を託している。

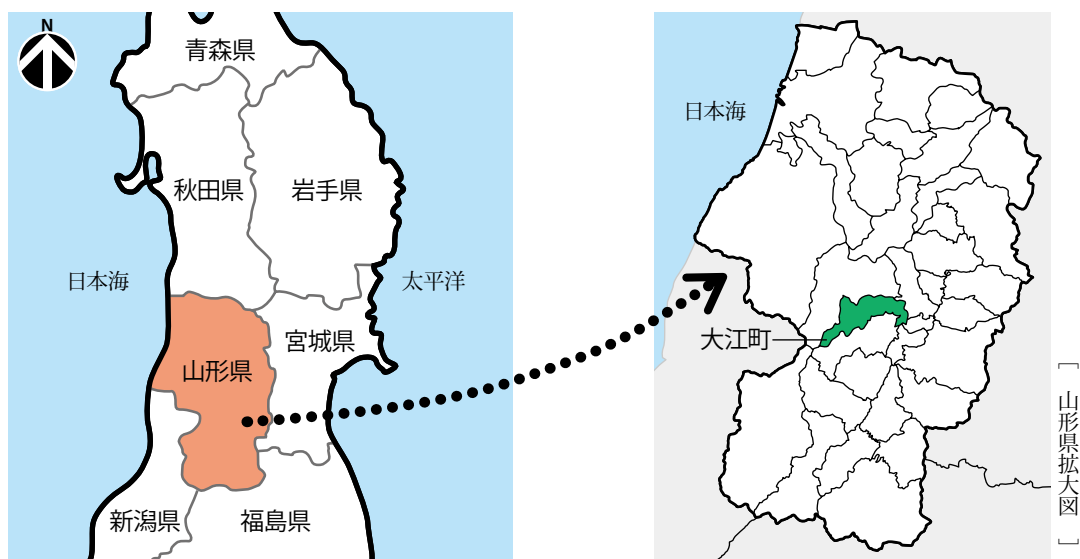


図1-1 大江町位置図

第2節 社会環境

大江町は、県都山形市から北西約20kmに位置し、東西に縦断する主要地方道大江西川線を中心に大小60の集落（区）が散在している。人口の約6割が居住する左沢を中心とする町東部は、JR左沢線の始発駅である左沢駅があり、国道458号と国道287号が横断するなど交通の便も良く、山形自動車道寒河江インターチェンジまで車で約10分、山形空港まで約20分と他県へのアクセスもしやすい立地にある。

しかし、左沢から10km以上離れた集落は10におよび、最も遠い集落である古寺は約30km離れている。また、60集落のうち18集落が20戸未満の小規模集落であり、特に過疎化が進行している町西部の七軒地区（旧七軒村）においては、10集落のうち8集落が小規模集落である。

大江町の国勢調査による人口の動向をみると、最も多かったのは町村合併前となる昭和25年の17,159人（旧左沢町、旧本郷村及び旧七軒村の人口合算）で、平成22年には9,229人となり、7,930人（46.2%）の大幅な減となっている。この間、0.5%～10.1%の割合で減少を続けている。

この人口の推移を旧町村単位でみると、左沢地区（旧左沢町）では昭和25年の7,934人が平成22年には5,528人で、2,406人（30.3%）の減となっている。また、本郷地区（旧本郷村）では同年5,397人が3,341人となり、2,056人（38.1%）の減となっている。一方、七軒地区では、昭和22年の3,862人が平成22年には360人で3,502人（90.7%）の大幅な減となっており、山間部ほど人口が激減している。

また、年齢別人口構成の生産年齢人口（15歳～64歳）の推移をみると、昭和30年の9,787人が、平成17年には5,556人で4,231人（43.2%）の減、年少人口（0歳～14歳）で6,012人が1,257人の4,755人（79.1%）の減となっており、少子化が著しく進行している。一方、年齢別人口構成の高齢人口（65歳以上）で比較してみると、昭和30年の932人が平成17年には3,102人となっており、2,170人、率にして232.8%の大幅増を呈しており、高齢化が進行している。

産業別就業人口は、昭和22年と平成17年を比較してみると、第1次産業では5,982人が881人に85.3%の減、第2次産業では1,239人が1,806人に45.8%の増、第3次産業では1,252人が2,392人に91.1%の増となっており、第1次産業の就業人口割合は、離農を背景に69.9%から17.3%と大幅に減少し、第2次産業（14.5%→35.5%）や第3次産業（14.6%→47.0%）を中心とした産業構造に転換してきた。

しかしながら、大江町の産業は果樹や水稲、畜産などの農業を礎として発展してきた。

農業については、昭和50年に果樹が米をしのぎ農業粗生産額で第1位となってからは、果樹・水稲を基幹作物としながら、野菜、畑作物、花き、畜産等を取り入れた複合経営が主体となり、りんご、ラ・フランス、おうとう等を中心とした“くだもの里”としての産地を形成してきた。

現代における他の産業としては、繊維工業を中心として食料品製造業、木材木製品製造業等が盛んで、昭和50年のピーク時には100を超える事業所があり、第1次産業から流出した雇用の受け皿となった。近年は、農業就業人口の減少や農業従事者の高齢化等により、第1次産業が占める割合は更に減少し、第2次産業、第3次産業の比重が高まっているが、町内に雇用の受け皿となる事業所等が少ないことから、労働力の町外への流出が続いている。

大江町の飲食店を除く商店数は、現在、減少傾向にある。昭和27年からの統計によると、昭和41年に333店を数えた町内の小売店及び卸売り店は、平成19年には134店と199店減少している。これに相応して小売、卸売に従事する従業員数も減少傾向にある。年間商品販売額の傾向は、物価の上昇や景気の影響による要因もあり増加してきたが、平成9年をピークに減少傾向を示しており、近年の一商店当りの年間販売額は4百万円前後となっている。

同様に、工業における事業所数（4人以上の事業所）は、昭和50年以降の統計によると、昭和50年の66件から平成21年の25件に減少している。従業員数は事業所数と同様な傾向を平成16年まで示していたが、規模の大きい事業所での採用などもあり増加傾向に転じている。製造品出荷額等は、平成20年まで増加傾向を示している。

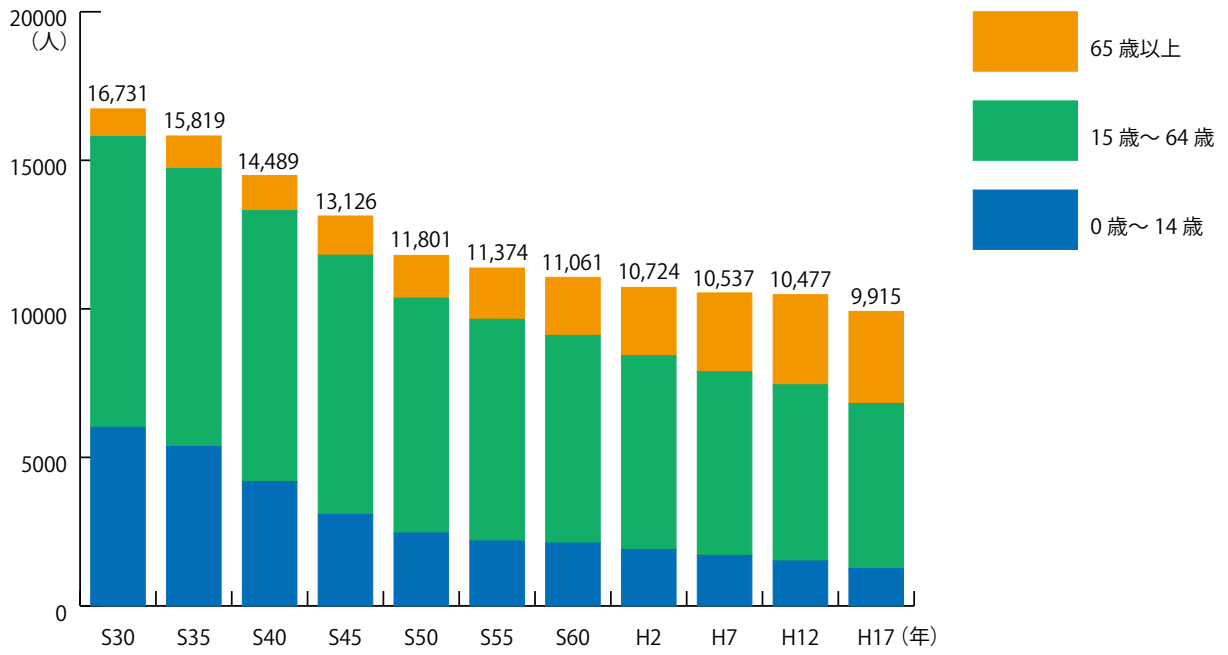


図1-2 旧町村単位の人口と世帯数の推移

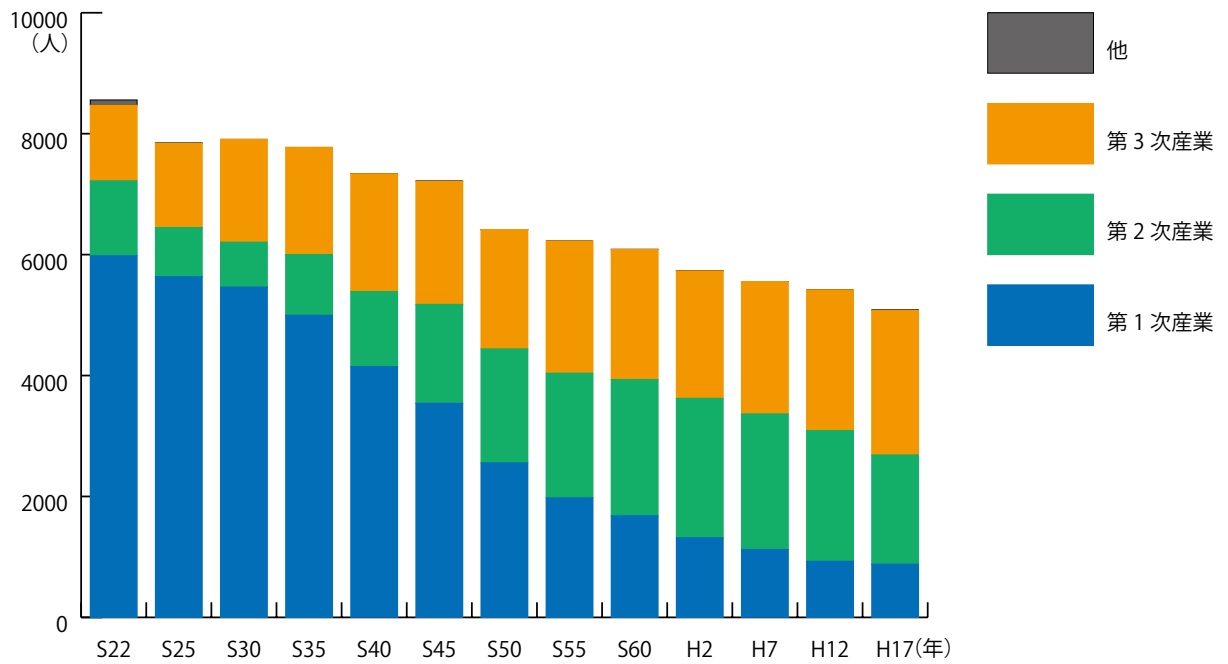


図1-3 産業別就業人口の推移

第3節 地名

本書で使用した主な地名が指す場所は、左沢は図1-4、大江町内は図1-5、山形県内は図1-6に示した。大江町は昭和29年及び34年の合併前の旧町村区分により、東から「左沢」「本郷」「七軒」の大きく3つに分けることができる。本報告書ではこの区分による地域の表記を「左沢地区」「本郷地区」「七軒地区」と表記した。

また、前記の旧町村区分による「左沢地区」には、大字左沢とその最上川対岸に位置する大字三郷（旧伏熊村、深沢村、用村）や、左沢から月布川の対岸に位置する、工業団地が広がる藤田などが含まれる。谷口集落や城下町であり最上川舟運の河岸に由来する景観が形成された「左沢」と位置づけられるのは、これらの範囲を含まない最上川月布川段丘上に展開した現在の左沢市街地一帯、概ね大字左沢部分である。そのため、単に「左沢」と表記した場合は大字左沢周辺を指すものとして表記を行った。

また、左沢には「原町」「内町」「横町」または「御免町」「袋町」「代官小路」「川端」「百目木」などの地名がある。江戸時代の左沢領で、各町の検断が掌握した行政的な意味での左沢の町組は、前者の3組に限られる。しかし左沢の構造や機能を説明する上では、内町組に属し城下町の職人の税金免除の特権をあらわす「御免町」、代官所付近で武家が居住した「代官小路」、または最上川沿いに位置する「川端」や茶屋や築があった「百目木」など、江戸時代の行政的な「町組」でもなく、現在の大字、小字名としても使用されていない地名が重要である。これら左沢の各地名の表記が指す場所は図1-4の通りである。

また「農山村部」という表記を行っているが、谷口集落左沢に対して、月布川流域に展開した商品作物や農産物の生産地である集落群を指す。概ね本郷地区、七軒地区である。

現在、本郷・七軒地区には38の区がある。大江町における区は現在60存在するが、区はその区域に住む住民によって選出された区長が、町と地区相互間の行政事務連絡を行う組織である。本郷、七軒地区には現在36の区が存在し、本郷地区では28、七軒地区では10を数える。

区の単位は、本郷地区では5つの区が、現代の町による団地造成で成立したものであるが、江戸時代または近代の村や枝村毎となっている場所が多くを占める。本報告書では現代、居住者が集まっている居住形態をあらわすものとして、現在区とされる単位を「集落」と表現した。現在、離村して区が存在しない場所も同様の考え方で「集落」という表記を使用している。



図1-4 左沢の地名

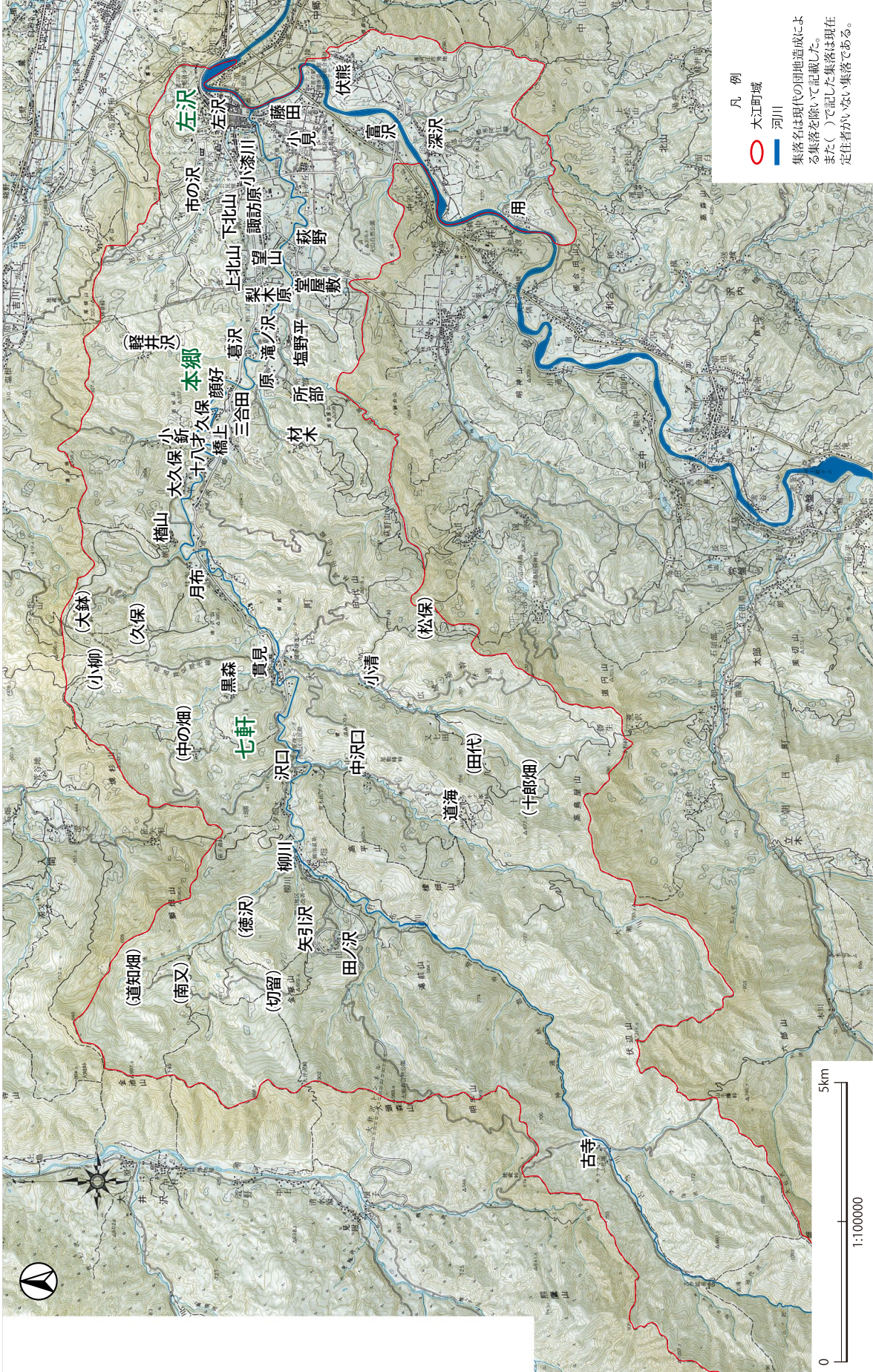


図1-5 大江町内の集落

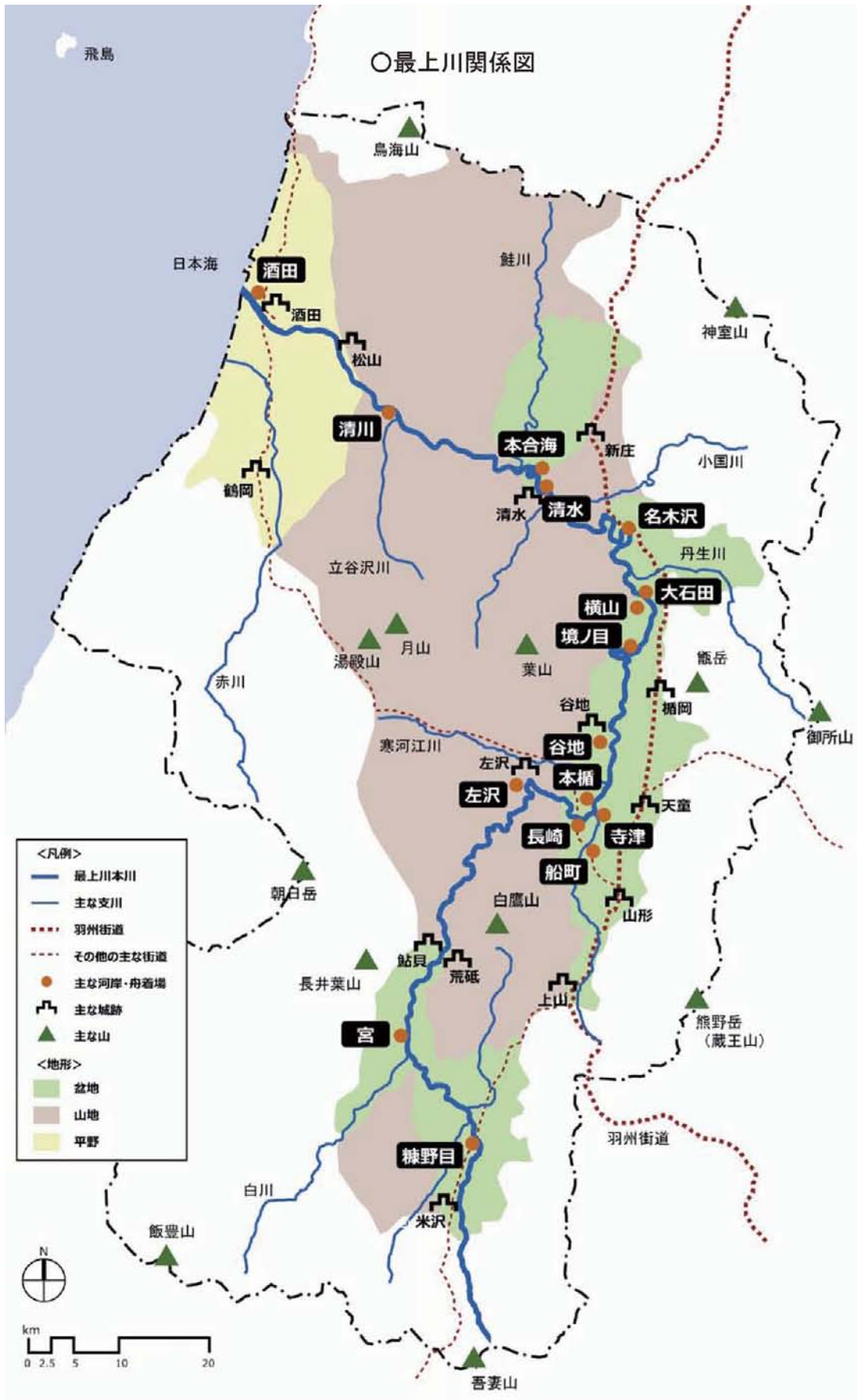


図1-6 山形県内の地名（『「最上川流域の文化的景観」調査報告書』より転載）